

「

BELIEVE

2017
冬号
VOL.59

」

特集 当院の褥瘡対策について



山野 将志「チクチクまるいサボテン」・制作年/2009・素材/アクリル、紙、パネル
〈エイブルアート・カンパニー所属 URL:<http://www.ableart.com.jp>〉

シリーズ **情熱の白衣 医師の素顔** 産婦人科部長 **野々垣 多加史**

- 食だより「お餅でチヂミ」／お薬ミニ知識「抗がん剤治療中の吐き気対策」
- がんサポートチームからのお知らせ／「かかりつけ医」をもちましよう／大阪赤十字病院のボランティア会について

大阪赤十字病院の理念

わたしたちは
人道・博愛の赤十字精神に基づき
すべての人の尊厳をまもり
心のかよう高度の医療をめざします

患者さんの権利

1. 一人の人間として、人権をまもられる権利があります
2. 良質かつ適切な医療を、公平に受ける権利があります
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利があります
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利があります
5. プライバシーがまもられ、個人情報保護される権利があります
6. 自己の診療録等の医療情報の開示を求める権利があります
7. 他施設の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります



当院の褥瘡対策について

褥瘡、床ずれといった言葉は聞いたことがあるけれど、詳しい原因や具体的な対策はわからないという方もいらっしゃると思います。しかし、褥瘡は、患者さんだけでなく周囲の方も一緒に対策ができるものです。当院では医師、認定看護師をはじめとした、他職種で褥瘡対策を行っています。今号は、褥瘡についての詳しい解説と当院の取り組みを紹介いたします。

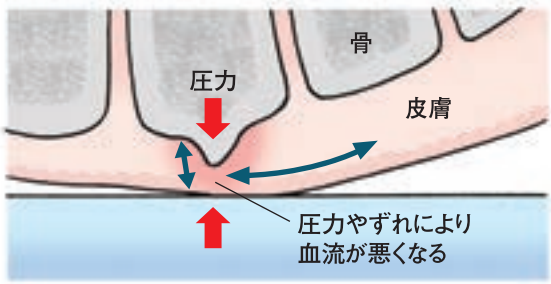
褥瘡対策委員会委員長 形成外科部長 内藤 浩



6月10日、広島県生まれ。京都大学医学部卒業。京都大学医学部附属病院研修医となり、京都大学大学院を修了。済生会中津病院、聖マリイナ医科大学病院形成外科、公立豊岡病院、広島市民病院、京都大学医学部附属病院、日本赤十字社和歌山医療センターを経て、平成18年より大阪赤十字病院形成外科に赴任。平成22年4月形成外科部長に就任。

■褥瘡とは

病气やけなどが原因で、自分で体を動かせないでいると、同じ場所が体重で圧迫され、血流が悪くなったり、滞ったりします。すると、その部位が赤味をおびたり、ただれたり、潰瘍や壊死することがあります。



これを褥瘡といいます。時には骨に近い組織まで達することもあります。褥瘡は重症化すると、生命に関わることや手術治療を必要とすることもあります。体の弱った方では、ちょっとしたことで褥瘡ができてしまうため、本人はもちろん周りの方も十分に注意することが大切です。

■褥瘡予防・治療に必要な対策

褥瘡の予防や治療には、主に同一部位を圧迫し続けないこと、皮膚を清潔に保ち、保湿、保護すること、栄養状態を整えることなど、すべての対策を個々の患者さんに合わせて行うことが必要です。ここからは、それぞれについてお話をします。

圧管理

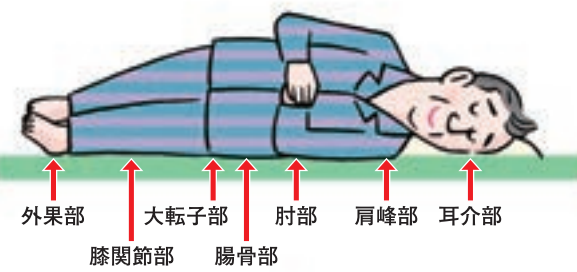
褥瘡は、骨突出部に長時間の圧迫やずれが加わることによって、皮膚組織の血流が途絶えることで容易に発生します。特に、病气や体調不良によって痩せによる骨突出部が出現し、ご自身で寝返りをうつことが困難な場合は、ご家族や介護者のサポートで体位を変えることが、褥瘡予防につながります。また、褥瘡予防マットレス（体圧分散寝具）や車椅子での座位姿勢が長い方には、褥瘡予防の車椅子用クッションを併用することで、予防が図れます。当院でも、褥瘡発生リスクのある入院患者さんには、褥瘡予防マットレスやクッションを使用し、退院

褥瘡の好発部位

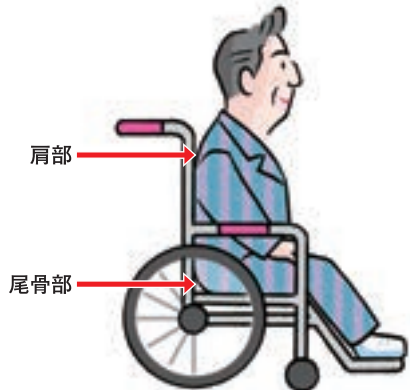
きょうが い 仰臥位 (仰向き)



そくが い 側臥位 (横向き)



ぎ い 座位

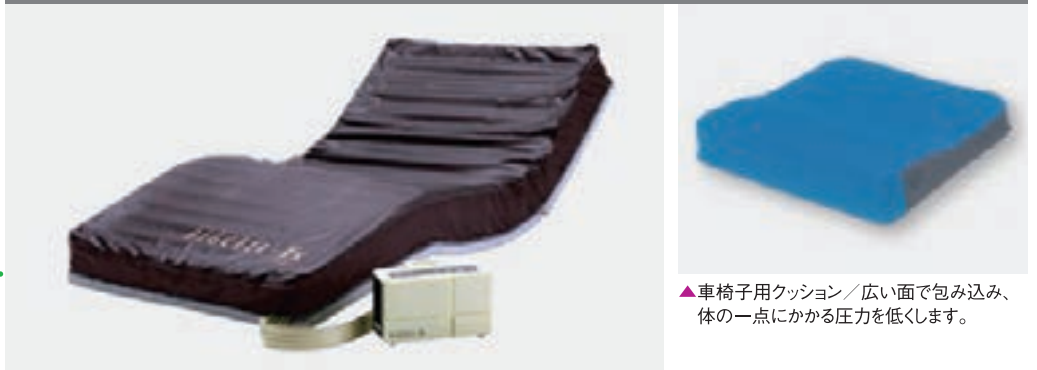


スキンケア

褥瘡予防には、皮膚の潤いと弾力性を保ち、外的刺激から皮膚を保護することが大切です。身体を温めて代謝を促す入浴シャワー浴足浴などが効果的ですが、熱すぎるとお湯は皮膚の油分を落としすぎ、ナイロンタオルなどでゴシゴシ擦ると、必要な角質まで落ちてしまいます。

時には介護保険の対象内でこれらの寝床寝具をレンタルすることなどの情報提供を行っています。何よりも可能な部位を動かすこと、寝床に接触している部位を変化させることが、褥瘡予防には必要です。

●最近では、在宅でもこのような高機能エアマットレスや車椅子用クッションが、介護保険対象としてレンタル可能なものが多様にあります。



▲車椅子用クッション／広い面で包み込み、体の一点にかかる圧力を低くします。

▲高機能エアマットレス／エアマットレスは、自動的にマットレスを柔らかくしたり厚くしたりすることによって、体にかかる圧力を変化させることができます。



▲当院の2階売店で購入可能な栄養補助食品

また、高齢者は味覚の低下や摂食嚥下障害（噛めない、飲み込めない）などにより、栄養不足になりやすいです。摂食嚥下障害がある場合は、小さく切る、軟らかく調理する、とろみをつけるなど調理方法を工夫することで、食事摂取量が増えることもあります。最近では、固さや飲み込みやすさに配慮された介護食品や、食事が少ない方向けの高エネルギー・高たんぱく質の栄養補助食品などが、スーパーやドラッグストアで購入しやすくなっています。日常の食事にプラスして、少しでも栄養状態を回復させることが褥瘡予防につながります。



ぬるめのお湯（38度程度）と泡立てた石鹸（弱酸性のボディソープなど）で、手や柔らかいタオルを使ってやさしく身体を洗うことで、肌の乾燥予防が図れます。また、加齢により皮膚をおおっている「皮脂膜」が形成されにくくなり、肌は乾燥しやすくなります。保湿クリームを入浴後や服を着る前に肌に塗り、長袖・長ズボンやきつくない靴下を着用すると、肌を保護することができます。

栄養管理

栄養状態が悪化すると、筋肉や脂肪組織が減少し、骨が突出して褥瘡がでやすくなります。日頃から体重測定を行うことで、痩せてきていないかを確認する目安になります。

また、高齢者は味覚の低下や摂食嚥下障害（噛めない、飲み込めない）などにより、栄養不足になりやすいです。摂食嚥下障害がある場合は、小さく切る、軟らかく調理する、とろみをつけるなど調理方法を工夫することで、食事摂取量が増えることもあります。最近では、固さや飲み込みやすさに配慮された介護食品や、食事が少ない方向けの高エネルギー・高たんぱく質の栄養補助食品などが、スーパーやドラッグストアで購入しやすくなっています。日常の食事にプラスして、少しでも栄養状態を回復させることが褥瘡予防につながります。

当院の褥瘡対策チームの紹介

当院では、形成外科医、皮膚科医、皮膚排泄ケア認定看護師、管理栄養士、退院支援看護師が中心となり、主治医、病棟看護師、外来看護師と連携を図り、褥瘡予防と治療に取り組んでいます。また、退院・転院される患者さんに対して、転院先の病院やケアマネジャー、かかりつけ医、訪問看護師とも連携を図り、褥瘡予防や悪化予防、褥瘡治療を目指して、チーム医療を展開しています。

褥瘡回診の風景



褥瘡回診では、褥瘡対策チームのメンバーと部署の医師、看護師とともに、褥瘡の治癒経過を評価し、処置方法を検討したり、悪化や予防に必要なスキンケア、圧管理、栄養管理についての対策の評価を行ったりしています。

★2025年には、4人に1人が65歳以上という超高齢社会時代になり、約500万人が寝たきりになるといわれています。寝たきりになると褥瘡の発生が増加するリスクが高くなり、社会的問題となります。医療者だけではなく、患者さんご家族の皆さまにも褥瘡予防意識をもって快適な生活をしていただくことを、チームメンバー同願しています。

褥瘡対策チームメンバー
 形成外科/内藤 浩、李 成姫 ■皮膚科/ノ名 昌美、藤田 真文 ■栄養管理課/山口 翔平、益田 花奈 ■入退院支援課/石川 知子 ■皮膚排泄ケア認定看護師/安藤 嘉子、福嶋 智子、遠藤 麻子

退院支援・地域連携

入退院支援課では、月平均670件の退院支援を行っています。そのうち85%程度の方が、自宅に戻られています。自宅に退院される方の中には、栄養状態や身体機能が悪く褥瘡予防を必要とする人や、急性期の治療が終了しても褥瘡が治らず、褥瘡治療を続ける方がいらっしゃいます。

入退院支援課では、「地域のかかりつけ医」

や「訪問看護師」、「ケアマネジャー」と連携を図っています。たとえば、入院中に病院に来てもらい、当院の主治医や担当看護師、褥瘡対策チームのメンバー、患者さんと家族の方も参加していただき、退院後の治療・生活についてのカンファレンスを行っています。そのときに、自宅での褥瘡予防マットレス（体圧分散寝具）や介護用電動ベッドの必要性を検討したり、褥瘡がある患者さんは褥瘡処置の方法を確認し合い、患者さんやご家族が自宅に戻られても心配なく、安心して療養生活が続けられるように地域の医療機関と連携を図っています。

当院の褥瘡対策チームと地域の訪問看護師さん



在宅療養される褥瘡患者さんのために、褥瘡回診の見学実習にいられました。褥瘡処置やスキンケアなどについて話し合う機会となりました。

トピックス 最近の褥瘡について

褥瘡は、一般的には「床ずれ」といいますが一方で、「圧迫性潰瘍」ともいいます。寝たきりでおしりなどにできるものは「床ずれ」ですが、医療関連機器やチューブ類があたっている皮膚が傷ついたりするものを「医療関連機器圧迫創傷」といい、これも褥瘡のひとつです。病院や在宅で療養されている人のなかには、呼吸補助のマスクで顔が圧迫されたり、チューブ類や足の血液循環を良くするストッキングや包帯で圧迫されて起こることもあります。



治療のためにやっていることで新しい傷ができてしまうことを最小限にするため、組織全体で取り組むこと大切です。また、患者さんご自身も積極的に不快に思う部分を伝えていただき、安全な管理をともにしていく必要があります。

野々垣多加史

産婦人科部長



TAKAFUMI NONOGAKI 9月20日、滋賀県生まれ。京都大学医学部卒業後、京都大学医学部附属病院をはじめ、京都、滋賀、奈良、兵庫、香川の病院において、産婦人科医として活躍。平成26年に当院に赴任。現在は産婦人科部長に就任し、産科・婦人科の診療運営をまとめている。

限られた力をどう配分するか。お産で医師に必要なことは体力と、『ここに集中する』という見極め力です。

タフな体でやってきた、年間500人ものお産。

毎回取材では、仕事のこと、プライベートのことを自由に話していたのだが、野々垣医師は、「それが一番困るんです。何の面白みもない人間なので」と苦笑い。しかし、産婦人科医として、京都、奈良、兵庫など、数々の病院で多くの赤ちゃんを取り上げてこられ、女性医学の診療に力を注がれてきた、野々垣医師の30年以上にわたる医師生活のやりがいや苦勞を聞いてみたい、という思いで話を伺った。

「大学から命令されるがままに、病院を転々としてきました。『次はどんな病院かな』と思うことはありましたが、職場が変わっても仕事が変わるわけではないので、仕事があるならどこへでも行くことは、当たり前前だと思っていました。」

出産が深夜になったり、時間が予定以上にかかったり、時には赤ちゃんが出てくるようにおなかを押すなど、お産は体力勝負の仕事なのだそう。「滋賀県の病院にいたときには、常勤医師は自分だけで、年間約850件の分娩に責任を持ち、アルバイトの先生に助けってもらっても自分で週4回産直し、500件以上の分娩を行いました。たくさんのお産をどう診ていくのか、この時代に得た経験で、自分の仕事のやり方が確立したように思います。」

現在は部長として、科の診療、運営が主な仕事。「仕事においては部長も、部長でない人も同じ『二人の医者』というスタンスです。今はお産の当直も少なく、病棟診療は若手医師に任せ、主に外来の診察と手術にあたっています。」

一度始めたら止められない、資料を自炊する休日。

以前は、「休めるときは体を休めるしかない」休日だったそう。「無趣味で、特に興味を持ってやってきたこともなかったのですが、今も休みは家でだらだらして、いつのまにか1日が終わってしまいます。」けれどもひとつ、野々垣

医師の凝り性を知ることができた。「香川県の病院で単身赴任をして以来、食事などを買ったレシートを残して、お小遣い帳をつけています。残金が1円でも違うと気になるんですね。やり始めたらずめられなくて、レシートに限らず、いろいろな資料も自炊（スキャナーを使ってデジタルデータに変換すること）して、データ化しています。無駄と思うことも、『無駄とわかって』やることには、意味があると思いますね。」



これが取材当時の自炊数。その数なんと、A4サイズのスキャナーで30万枚以上！最近、A3サイズのスキャナーも購入されたそう。

最後に、タフに仕事する秘訣を聞いた。「お産を一件一件管理することはそう難しくはないですね。しかし、お産がいくつも重なった場合には、全然違ってきます。『今、一番どこに集中すべきか』を見極めることが大事で、その力を身につけることが必要です。一人に100%の力を使って満点の成果を出すより、50%の力で80%の結果を出すほうが、その余力で次の人を助けることができる。若手医師にも話していることですが、そういう考え方で仕事ができることも知ってもらいたいですね。」

看護師レポート・59



お母さんが安心できるお産を目指していきたい。

産婦人科病棟看護係長 溝邊 真由実

幼い頃は、学校の保健の先生になりたいと思っていた。ケガの手当てや、健康診断での検査の様子に、興味を持っていました。それが看護師になるきっかけになったと思います。そして、看護学校で見学したお産の現場に魅力を感じ、勉強してみようと助産師学校に進みました。外来の看護と、病棟で妊婦さん、産婦さん、出産されたお母さんと赤ちゃんのケアに携わっています。赤ちゃんが産まれる、家族の一員が増える瞬間に立ち会って、「あのお産はよかったね」と喜ぶのですが、「あのお産であつても、もつと何かできたのでは」と反省があり、「なかなか一人前にはなれないな」といつも思います。

数日お休みがとれたらダイビングに行っています。ダイビングは高校生のときからやっていて、海中生物を見つけるには写真を取り、どんな生物なのかを後で図鑑で調べることを楽しんでいます。



海に潜っては、マクロレンズで小さな生き物を撮影。

当院では、妊娠時から妊婦さんとかかわり、入院して出産するという流れができています。顔見知りになる方もいます。お話をじっくり聞く時間は少ないのですが、始めから切れ目なくケアをしていきたいなと思います。妊婦さんの体調も成長の経過もそれぞれにあり、スタッフにもそれぞれに考えや経験があります。その方に適したケアを見つけ、どのスタッフでも同じ看護が提供できるようにするには、難しいことでもあります。どの方にとつても「いいお産」になるよう、取り組んでいきたいと思っています。

MAYUMI MIZOBE

6月12日大阪府生まれ。大阪赤十字看護専門学校卒業後、大阪赤十字助産師学校に進学。卒業後、当院産婦人科病棟に入職。助産師として患者さんへの看護とともに、平成24年より、係長として新人助産師の教育を担当している。

食だより

お餅でチヂミ

栄養管理課 管理栄養士 山口 翔平

お餅を使ったアレンジ料理

お正月も過ぎて、お餅が余っていることはありませんか？ お雑煮で食べたたり、焼いて食べたたり、お餅の普通の味に飽きてしまった方におすすめなのが「お餅チヂミ」です。お餅が入っているので食べ応えがあります。お肉の代わりにタコやイカなど好みの具材を使用して、オリジナルチヂミを作ってみませんか。

- 〈作り方〉
- 1 お餅をサイコロ状に切る。
 - 2 中華スープの素をぬるま湯に溶かして、小麦粉、卵、ニラを入れて混ぜ合わせる。
 - 3 熱したフライパンに、ゴマ油を注いで生地を入れる。
 - 4 生地の上に豚肉をのせる。
 - 5 フライパンを回すように、ゴマ油を全体になじませる。
 - 6 片面に焼き目が付いたらひっくり返して、同じように焼いてでき上がり！



- 〈材料〉約3枚分
- お餅……………3個
 - 中華スープの素……………10g
 - ぬるま湯……………250cc
 - 小麦粉……………150g
 - 卵……………1個
 - ニラ……………70g
 - 豚肉……………60g
 - ゴマ油……………5g
- 〈つけだれ〉
- 醤油……………大さじ1
 - 酢……………大さじ2
 - 砂糖……………大さじ1
 - ラー油……………少々

- ココがポイントです
- Point 1** ゴマ油を少し多めに入れ、焼き揚げる感じにするとカリカリに仕上がります。
 - Point 2** 豚肉をのせた面は焦げやすいので焦げないように注意しましょう。

お薬 三二知識

薬剤部 薬剤師 庄司 瑞野

抗がん剤治療中の吐き気対策

入院による精神的負担も少なく、治療開始前とほとんど変わらない日常生活を送っていたことから、昨今、抗がん剤治療は外来で行われることが多くなつてきており、当院の通院治療センターを利用される患者さんの数も年々増えてきています。しかし、外来で治療することについては、患者さん自身で副作用に対応していただく必要があるということなのです。なかでも、吐き気への対応は苦労される方が多いと思います。そこで今回は、抗がん剤治療における吐き気の種類と対応の仕方について紹介します。

- 急性(24時間以内)** 急性の吐き気には、当日の抗がん剤の点滴の前に点滴や内服で対応します。使用する薬剤にはアプレピタント、ホスアプレピタント、パロノセトロン、グラニセトロン、デキサメタゾンなどがあります。
- 遅発性(2日目以降)** 内服の吐き気止めに対応します。頓服で使用することもあれば、予防的に定期内服することもあります。使用する薬剤にはメトフロプラミド、プロクロルペラジン、デキサメタゾンなどがあります。
- 予測性(抗がん剤治療前)** これまでの治療での吐き気の経験が原因で起こる、予測性の吐き気にはオランザピン、ロラゼパム、アルプラザラムなどが使用されます。

その他(抗がん剤以外の要因) がんの脳転移、高カルシウム血症、消化管閉塞、感染性胃腸炎、医療用麻薬の使用など、抗がん剤以外の要因が惹き起こす吐き気もあります。前述の吐き気止めや、生活上の工夫で対応可能な場合もあれば、早急に原因となる病態の治療が必要な場合もありますので、ご相談ください。また、便秘や胃酸分泌など、抗がん剤治療の副作用が原因で、二次的に起こる吐き気もあります。これらには原因となる副作用を予防します。

抗がん剤による吐き気は、お薬を上手に使用すれば予防軽減できる副作用です。がまんせずにご相談ください。また、吐き気のあるときに無理に食事を摂ろうと気負う必要もありません。数日であれば食事の量が落ちたり、食べやすいものに食事の内容が偏ったりしてもかまいませんので、脱水予防のための水分摂取だけはしっかりと心掛けてください。





「がんサポートチーム」からのお知らせ
**がん患者さんが療養場所を
 考えるうえで大切なこと**
 入退院支援課 がん看護専門看護師 谷口香織
 vol.32

■療養場所について

皆さんは、がんが進行し、今後治療が難しくなった場合、どこでどのように過ごすかを考え、その思いを大切な人と話し合わせたことはありますか？今後について考え、話し合うことは必要だと感じていても、そのタイミングがいつなのかわからないと思われる方も多いと思います。

■考える・伝えるタイミング

がんが進行すると身体的症状が現れ、医療行為が必要となるとともに、介助を要することが多くなってきました。このようにさまざまな症状が現れると、患者さんだけでなく、その状況を支えているご家族もつらい思いをされるのではないのでしょうか。そのようななかで、療養場所を考えることはとても大変なことです。今後について考えることに、早いということはありません。ご自身で考えることができる状況にある今から少しずつ考え、その思いを大切な人に伝えていただきたいと思います。



■「価値をおくもの」
 に気づく

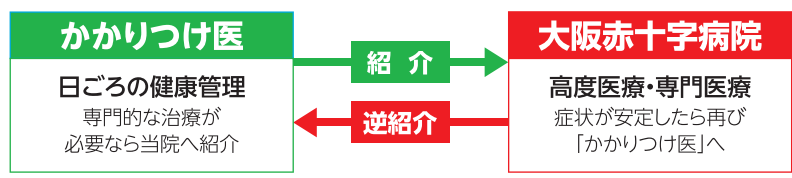
療養場所について「病院ではなく、住み慣れた家で家族と過ごしたい」と在宅療養を希望される方もいれば、「病院の方が安心だから、自宅より病院で過ごしたい」と入院を希望される方もいらっしゃいます。この決定は、療養場所の意味を患者さんやご家族がどのように捉えるか、何に価値をおくかが影響しており、正解はありません。さまざまな場面で悩み、葛藤しながら自分の望むものが何かを見出し、決定していくことは、容易なことではありません。しかし、その過程のなかで、人生や生き方において、自分は何に価値を置いているかに気づき、何を選べば良いかが少しずつ見えてきます。

本館2階8番窓口にある『がん相談支援センター』では、そのような療養場所も含めたがんに関する情報提供を行うとともに、不安や悩みをお聞きして一緒に考え、考えを整理していくためのお手伝いを行っています。対象は患者さんだけではなくご家族も含まれます。がん相談支援センターにお越しいただくか、お電話やメールでご相談ください。

がん相談支援センター 当院では、がん全般に関するさまざまなご相談をお受けしています。TEL:06(6774)5152 FAX:06(6774)5126 syakaika@osaka-med.jrc.or.jp

「かかりつけ医、をもちましょう 登録医紹介

病院と診療所がその機能や役割を分担しながら、患者さんに適切な医療を提供することが求められています。自分のことをよく知っていて、ちょっとした病気やケガの診察や相談ができる「かかりつけ医」をもちましょう。



いのうえい いん
井上 医院

- 院長/井上 薫
- 診療科/内科・小児科・放射線科
- 住所/大阪市浪速区日本橋東2-3-13
- 電話/06-6641-4960
- 休診日/日曜日・祝日
- 往診/有 ●訪問診療/有
- 診療時間



外来	月	火	水	木	金	土	日
午前(10:00~12:00)	○	○	○	○	○	○	△
午後(13:00~14:30)	○	○	○	○	○	○	△
午後(18:00~20:00)	○	○	○	○	○	○	△

特長 昭和29年開院以来、地域に密着した診療を行ってきました。現在は親子2代で診察しています。長男が診察するようになってからは、消化器疾患の診断と治療に新しい医療機器を用いて対応できるようになりました。患者さんの待ち時間を極力短くするよう心がけています。

地域の皆さまへ 地域に密着した診療が高度な医療レベルになることを目指し、幅広い医療知識と技術を備えるべく日々研鑽しています。より高度な診断、治療が必要な場合は、大阪赤十字病院をはじめとする高度医療施設へ迅速に紹介しています。地域を発展させ、そのなかで健康を守っていくように誠心誠意診療しています。

いりょうほうじん はやし かい はやしびょういん
医療法人早石会 早石病院

- 院長/早石 誠
- 診療科/内科・外科・整形外科・リウマチ膠原病内科・皮膚科・リハビリテーション科
- 住所/大阪市天王寺区筆ヶ崎町2-75
- 電話/06-6771-1227
- 休診日/日曜日・祝日
- 診療時間



外来	月	火	水	木	金	土	日
午前(9:00~11:30)	○	○	○	○	○	○	△
午後(13:30~16:30)	○	○	○	○	○	△	△

※土曜日は午後15:00まで



特長 早石病院は、昭和12年細工谷に開業し、平成23年には現在の場所(大阪赤十字病院の前)へ移転建て替えをしました。患者さんの気持ちを考えた医療を提供し、患者さんから信頼を得られる「地域に貢献する医療機関」を目指しています。外来診療は、整形外科、外科、内科、リウマチ膠原病内科、皮膚科の診療を行っています。

地域の皆さまへ 整形外科領域では、腰痛・膝の痛みや骨折などに対し、保存的治療もしくは必要であれば手術治療を行っています。内科領域では、消化器疾患や糖尿病などの生活習慣病の診療を行っています。必要に応じて胃カメラ・大腸カメラなどの各種検査も行っています。昨今では、皮膚科も新設しました。お気軽にご来院ください。

土曜日朝に地震発生！ 災害訓練で、職員徒歩出勤

【災害訓練実施日：平成28年10月1日(土)午前9時～正午】

国際医療救援部 部長 中出 雅治

大阪で大地震が起こった場合、病院として一番困るのは、深夜や休日に発生し、公共交通機関が止まってしまふことです。病院は休日でも比較的職員がいる施設ですが、それでも平日の日中と比較すると、大部分の職員が自宅などの院外にいます。この状態で公共交通機関やタクシーが止まってしまうと、病院のような都心にある病院は、職員が登院するのにかかる時間がかることが予想されます。

当院では、これまで災害訓練を平日の日中に発生したという想定で行っていましたが、今年度は、土曜日の午前9時に上町断層直下型地震が起こり、公共交通機関とタクシーが動いていないという想定で行いました。幹線道路は交通規制で緊急車両以外通行できないため、自家用車も使用できません。そのため、職員はまず家族の安全と自宅の被害を確認した後に、自宅から徒歩もしくは自転車での出勤するところから始まりました。しかし、遠方に住んでいる職員は訓練終了までに病院に到着することができないため、90分以内で登院可能な職員のみ登院し、90分以上かかる職員は所属上長にメールで安否と登院できない旨を連絡することとしました。

訓練当日、90分以内に徒歩や自転車での登院してきた職員は177名。医師、看護師は比較的速やかに登院できたものの、他の医療職や事務系の職員の多くは遠方に住んでおり、参加できる人数が限られました。その結果、レントゲン撮影や検査が可能となるには、かなりの時間を要するという課題が見つかりました。一方で、毎年の実戦的な訓練の積み重ねもあり、限られた病院機能のなかで、多くの模擬患者さんを円滑に治療することができました。また各職員においては、実際に徒歩や自転車から登院することで、それぞれ事前に想定していた以外の課題も見つかり、深夜や休日に発生したときの心構えを新たに持つことができました。



▲停電した1階ロビーで診療



▲近隣の聖バルナバ病院へ妊婦さんを搬送



▲防災センターでは警備員も訓練に参加



▲私服でやって来る職員を登録する災害対策本部



▲模擬被災地で大阪市消防局や大阪府警も奮闘



ハートラちゃん

大阪赤十字病院のボランティア会について

なぜピンクのエプロン姿なの？

昭和43年、ピンクのユニフォーム姿で当院の玄関ホールで案内サービスを行ったことから始まります。

ボランティア会の発足はいつ？

当院では昭和39年に少人数でボランティア活動が始まり、平成26年にボランティア会結成50周年を迎えました。現在77名の会員が活動されています。

どんな活動をしているんだろう？

病棟へ図書サービス(愛の移動図書)	
本館7階 愛の図書室開放	当院でのボランティアさんの活動
本館2・3階 インフォメーション	
病棟への車椅子移送	
車椅子のメンテナンス	
衛生材料整理	
整肢学園での洗濯物たたみ	
患者情報室の管理	

今号では、入院患者さんにやさしいのひとときを提供する「図書活動」について紹介します。

当院では医師、看護師をはじめ多くのスタッフが診療活動を行っています。ピンクのエプロン姿のボランティアさんのことはご存じでしょうか。今号では、患者さんを支えるボランティアさんの活動を、日本赤十字社公式マスコットキャラクターのハートラちゃんとともに紹介します。

Q 愛の図書室にはどれくらいの本があるんだろう？

約5,600冊あります。小説、漫画、雑誌など、寄贈された書籍もたくさんあります。火曜日、木曜日の午後1時～午後3時、本館7階の図書室を開放しています。

Q 図書室に行かないと借りられないのかな？

金曜日午前9時30分～午前11時30分に、愛の移動図書として本館及び東館病棟にお伺いしています。月曜日午後1時～午後2時には、小児病棟の各病室を回っています。



▲移動図書用のカートで病棟を回ります



▲小児病棟では部屋に訪問しています

★ボランティア活動への意気込みをお伺いしました

●流田 亜希さん(右)、平井 昌子さん(左)

「ご希望の本が揃ってなかったり、開室時間が限られていたり、患者さんにとって満足のいく環境ではないなか、たくさんのお本を借りていただいたときはとてもうれしいです。患者さんとお礼の言葉をいただいたりすることもありますが、患者さんにとって居心地の良い場所作りを心がけたいと思います。」

●看護学生 工藤 みなみさん(右)、田中 雛乃さん(左)

「私たちは、愛の図書室で患者さんやそのご家族に本の貸出を行っています。また毎月、季節に合わせたカレンダーの製作もしています。たくさんの方にご利用いただけるような図書室にできるように、これからもがんばっていきたいと思います。」

★一部ではありますが、当院で活動されているボランティアさんが、患者さんの入院生活を支えてくださっていることをお伝えしました。今号もボランティアさんの活動を調査し、本誌「びり〜ぶ」で紹介いたします。

Topics Box

トピックス & ニュース

Event

「世界糖尿病デー」にちなみ「第7回 糖尿病オープン教室」を開催しました

糖尿病の予防と治療継続の重要性をより多くの方々に知っていただくために、当院では11月14日の「世界糖尿病デー」にちなんで、毎年オープン教室を開催しています。今回は「風邪は万病の元、糖尿病は億万病の元!」をテーマに、糖尿病に関する講演や血圧・血糖測定、医師を含む医療スタッフによる相談ブースを開設し、多数の方々にご参加いただきました。



▲オープン教室の様子

今回も開催に先立ち、糖尿病に関しての川柳を一カ月間募集したところ、優秀な作品が多数集まりました。厳選の結果、最優秀賞、優秀賞、職員優秀賞には次の4作品が選ばれました。

最優秀賞

糖尿の影の主治医は俺の嫁

ペンネーム 雪山男さん

優秀賞

糖분을当分控えて努力賞

ペンネーム MAYさん

優秀賞

メールやめ
家族でジョギング 会話増え

ペンネーム 光波さん

職員
優秀賞

歩くほど
増えるポケモン 減る体重

ペンネーム 大阪城公園朝ランナーさん

今年も10月より、糖尿病に関する川柳を募集します。詳しくは本誌秋号に掲載予定です。皆さまからのご投稿を心よりお待ちしております。

News

当院で生体腎移植第1例目に成功しました

11月9日に京大関連病院の移植チームの応援を得て、泌尿器科医、腎臓内科医、麻酔科医、看護師、臨床工学技士他、多数参加し、当院で初めての生体腎移植に無事成功しました。

54歳の母親から腎臓を提供いただき、32歳の息子さんに移植しました。この症例は、母親と息子の血液型が違う困難な血液型不適合移植で、レシピエント(移植される患者さん)は2週間前から入院し、リツキサンを投与、1週間前から血漿交換をして手術に臨みました。

ドナー(提供者)の腎臓摘出は、腹腔鏡で患者さんの痛みなどが少ない低侵襲に行いました。移植手術は、ドナーの腎動脈が細く2本あるという技術的にも難しい症例でしたが、無事に成功しました。

ドナーもレシピエントも大きな合併症もなく、レシピエントの急性拒絶反応も現時点ではなく、無事退院されました。腎臓移植は、手術そのもの以上に術前の準備も大変で、さらに術後長期にわたる拒絶反応のコントロールなどが非常に難しい治療ですが、長期間にわたって移植した腎臓が生着する(腎臓の機能を果たす)ことを祈っています。



▲腹腔鏡下腎採取中



▲腎移植中

News

「キャロリング」を開催しました

12月22日(木)夜、恒例の「キャロリング」を開催しました。

キャンドルを持った大阪赤十字看護専門学校の見習い学生と当院の看護師の聖歌隊が、聖歌を歌いながら病棟を回りました。

やわらかなろうそくの灯りに包まれた病棟には、「入院中の患者さんにやすらぎとなぐさめを」との気持ちが込められた美しい聖歌が響きました。

最後には正面玄関ホールに聖歌隊が美しいアーチを描いて列を作り、素晴らしい歌声が披露されました。



▲正面玄関ホールにて

News

海外たすけあい募金にご協力ありがとうございました

当院では12月1日～25日まで院内各所へ募金箱を設置しました。皆さまから総額35,002円もの心温まるご寄付をいただきました。募金にご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。また、今後とも赤十字活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

海外たすけあいて?

海外の紛争、災害、病気で苦しむ人々を支援することを目的に、昭和58年2月から始まった海外たすけあい募金は今回で34回目を迎えました。日赤の国際活動の多くが、このキャンペーンの寄付で実施されています。

集められた寄付金は、例えば海外で地震、洪水、干ばつなど災害が起きたときに、被災国の赤十字社からの要請に基づいて、国際赤十字の枠組みを通して現地の赤十字社に資金が送られています。現地では、国際赤十字の調整のもとに、食料や緊急救援物資などの購入や、地元で根差した現地赤十字職員やボランティアが物資の配布や救援活動を行います。また、日本から日赤の職員を派遣して活動することもあります。

人事異動情報(平成28年10月1日～12月31日)

採用 (10月7日付) ●放射線治療科/非常勤嘱託医師・中村 清直

退職 (10月31日付) ●心臓血管外科/副部長・松尾 武彦 (12月31日付) ●麻酔科/非常勤嘱託医師・渡辺 昌広

病院のご案内

- 受付時間(月～金) (診療開始は午前8:45からです)
初診/月曜日～金曜日 8:30～11:30 再診/月曜日～金曜日 8:00～11:45
- 休診日 土・日・祝・5月1日(本社創立記念日)・12月29日～1月3日
- 診察券 診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- ご面会 (病状によってこの限りではありませんが、必ず病棟の看護師にご相談ください)
平日/14:00～19:00 休診日/10:00～12:00、14:00～19:00
小児病棟(平日・休診日とも)/14:00～19:00
- 保険証等 保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

当院は
敷地内全面禁煙です

当院は、敷地内全面禁煙を実施しています。
ご理解とご協力をお願いします。



大阪赤十字病院

大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30 平成29年1月発行

■お問い合わせ

TEL:06-6774-5111(代表)

大阪赤十字病院 <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>
赤十字全般 <http://www.jrc.or.jp/>

